

山地中將の肖像附録

過般讀者の投票多数により本紙の石版附録を定りたる山地中將の肖像は彌々來る二十日の本紙に添へて讀者に配布すべし

時事新報

社會の原動力

日本は山水秀麗、風土優美にして其に遠東諸洲の名に背かず又社會の上流に宗教の勢力薄くして特に近年は士人言行の制裁も甚だ厳ならずが故に西洋人の來り遊ぶ者の如きは或は別天地と呼び或は樂園の名を呈して故郷の俗塵を一掃したるを稱せざるは亦し遠に其言を聞けば恰も我日本の爲めに誇る可きが如くあれども更に沈思して内實を觀察するときは却て大に然らざるを發明す可し蓋し彼の諸國に於ては宗教の勢力もあり社會の制裁も亦嚴にして士人の一舉一動任意する能はず常に束縛に苦みよれば日本に來りて我國人の何事にも淡泊無頓着なるを見聞し漫遊の旅中、心の欲する儘を行ふて妨げなきは實に外人の樂土として満足する所からん責任なき旅客の爲めには好都合なる可しと雖も主人たる我國人の身を以て之を省れば偶々我人心の不取締にして國俗の堅固ならざるを證するに足る可きのみ樂土決して樂土に非ざるあり元來國風の盛衰は社會の事情と概ね相伴ふものにして譬へば日月天に輝いて草木影を生ずるが如く政事軍事等の表面に忙を極むるときは人心爲めに奮はれて復た裏面風俗の邊を顧みざるに至るも古今の史乘に徴して明白されば近來我國の人心風俗の堅固ならざるも自から種々の原因あるべしと雖も其ふれをして美ならしめ又醜ならしむるは實に社會に原動力ありて一々範例を示すに由るもの多きが如し之を開く軍隊に將校團なるものあり此團體の行儀を實に三軍の精神を支配するものとされば國に忠に軍に勇に方清謙を守らざる可らざるや勿論にして居常相切替するを軍の定則とすといふ我輩の所謂社會の原動力とは猶ほ軍隊の將校團の如きものにして昔は士族の武士道を囑ひ者ありて恰も原動力の地位に立ちたりしが今や時勢と共に其趣を變じて文明男子の一種は正に之に代るものとあり將來も亦此任を辭するものと能はざる者ならん輕からざる責任を帯る者といふ可し而して此輩の實際に行ふ所を見れば地位の輕重に論ずる品行を備へて身分不相應の奢侈を事とし放縱行殆んど見るに忍びざる者多し凡そ士人の世に在るや衣食を全ふして妻子を養ひ以て我事畢れりと云ふ可らず更に社會の文明を補益するの義務を免れざるものあれば時としては懲を制して堪へ難きに堪ふるも亦止むを得ざる次第あるに彼の文明男子は其德行の以て社會に標準たる可きものなきのみならず日常の美衣美食も唯一時の外觀を裝ふのみにして内實に其美と實との實力さへある者少し不徳無義、曾て無形の文明に補益する所なくして却て風俗を害しかるが其の地位は則ち社會に淺からざる原動力を及ぼす者ありと云ふ、我輩は世風俗の點より觀察を下し此種の

官報

農商務省訓令第四十號 北海道廳 府縣 本年當省令第十一號度量衡法施行規則第四十條ニ據ル度量衡器ノ製作、修理原器拂下代ノ徵收方ハ其廳ニ委任候條二十三年當省訓令第六號及第二十號ニ據り取扱可シ 但二十五年年度概算書ハ送附ニ及ハス 明治二十四年九月十二日 農商務大臣陸奥宗光

雜報

行政裁判所二十五年年度の概算 行政裁判所に於ける二十五年年度の概算なりと云ふを聞くに俸給及び諸給は本年度の豫算より七千五百七十圓餘を増して三萬六千四百九十圓餘と爲り修繕費は五百五十圓餘を増して一千圓と爲り旅費は六百二十圓餘を増して一千圓と爲り雜給は三百四十圓餘を増して二千二百圓と爲り費は三千圓餘を増して七千圓餘と爲り其合計凡そ四萬七千六百九十圓餘と爲るを以て之を本年度の豫算全額に比すれば凡そ一萬二千圓餘の増額ありと云ふ

元來此の俱樂部の成立は舊大同愛國自由の各黨派員より組織し所謂東雲關西の兩新聞派の集合體あれば同俱樂部員中にも往々感情の衝突を來すものとありて分黨説を唱ふる者少からず舊自由黨員硬派議員を養成する者は今の自由黨に走らんとし新派に屬する者は自由俱樂部に赴かんとする傾きありて此頃小林棟雄氏の坂地留中に舊東雲新聞派の部員に合同する處あり一方には星大井氏等の説を贊成する舊自由黨員の少なかれば近日の中には三州俱樂部の四分五裂を見るに至るべしと云ふ又舊自由大同派員中には敏捷く部員の運動を始め表面は地價修正論を唱へ居るも内實若し同俱樂部の分裂あらんには自黨の味方を多く引入れんとの策略に至る處演説懇親會を開き居るよしなり

水車一馬力一箇年 水力水車價銀十圓 汽機一馬力一箇年 汽機價銀十五圓 汽機燃料費 汽機燃料費 汽機燃料費 汽機燃料費

上野新聞 上野新聞 上野新聞 上野新聞 上野新聞 上野新聞 上野新聞 上野新聞 上野新聞 上野新聞